

【65】電車の車庫は浸水し易い

2019年10月の台風19号による東日本各地の水害の中で、長野市西郊の千曲川（ちくまがわ）の破堤氾濫によりJR東日本北陸新幹線の車輛基地が浸水しました。洪水氾濫が運転終了後の深夜だったこともあり、折から“駐車”していた10両編成120両の電車が浸水し、結局廃車のやむなきに到り、損害額は200～300億円に達しました。

古い話になりますが、1982年（昭和57年）の近畿地方の水害で、奈良県北部の国鉄（当時）関西本線の王寺駅の電車基地が大和川の氾濫で浸水したことがありました。浸水に到るまでの時間の余裕があったので、迅速に対処すれば電車を避難させられたようですが、当時の国鉄は、予定されていない作業には労働組合との協議が必要とかで間に合わず、みすみす被害を出してしまいました。

鉄道の車輛基地、車庫は水平であることが要求されるので、広くて平らな土地が必要になり、わが国ではつつい水田地帯に立地しがちです。私の知っている埼玉県に在るJR東北線の車輛基地、そして東武鉄道日光線の車輛基地のいずれもが利根川の氾濫原の低地の水田地帯に立地し、しかもすぐ傍らを内水河川が流れているのです。電車で通りかかるたびに心配しています。